

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察特殊報第 1 号を下記のとおり発表したので送付します。

平成 27 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

平成 28 年 1 月 8 日

岡 山 県

1. 病虫害名 **オオクビキレガイ** *Rumina decollata* (Linnaeus)
2. 発生作物名 ホウレンソウ、シュンギク
3. 特殊報の内容 農作物におけるオオクビキレガイによる被害を初確認
4. 初発生確認月日 平成 27 年 11 月
5. 発生確認場所 岡山県南部
6. 発生面積 約 1 a
7. 発生状況

平成 27 年 11 月に岡山県南部の家庭菜園圃場において、ホウレンソウ、シュンギクの葉先が食害されており（図 1）、株元の土壌を掘り起こすと数 cm 程度の貝がいるとの情報を得た。現地から採取した貝を鉢植えシュンギクに放飼すると、現地と同様の葉の食害（図 3）が確認されたため、岡山大学大学院環境生命科学研究科の福田宏准教授に診断依頼したところ、オオクビキレガイと同定された。オオクビキレガイは平成 26 年に倉敷市で発生が確認されているが、この時には農作物被害は報告されていない。本種による農作物被害は本県では初確認である。これまで、平成 7 年に山口県で農作物での被害が確認され、特殊報が発表されているが、現在のところ被害は問題となっていない。

8. 形態

本種の大きさは成貝で殻長約 3 cm、殻径約 1 cm である。殻は右巻きで、幼貝では末広がりの高円錐形であるが、成熟後は殻頂部が脱落して円筒形となる（図 2）。殻の色は若い個体では半透明で光沢があり、赤みを帯びた淡橙色であるが、老成すると光沢が失われ、不透明なベージュ色となる。頭部から腹足の背面と触角は黒色で、足の裏は緑がかかった黄色である。本州・四国・九州など我が国の温帯域において、市街地、畑、庭園など人の手が加わった環境に見られる陸生の貝類のうち、殻が細長い円筒形で成熟後に殻長が 2 cm を超える右巻きの種は、現在のところ本種のみである。

9. 生態及び被害

- (1) 発芽直後の幼植物や野菜等を食害し、花壇や家庭菜園等での被害が多い。特に、結球性レタスへの嗜好性が強い。
- (2) 地中海沿岸が原産とされており、植物残渣の堆積場や塀などで囲まれた湿ったところを好むが、乾燥耐性も強い。
- (3) 夜行性で日中は土中に潜ることが多いが、曇雨天時には日中にも地上を匍匐したり植物を加害することもある。

- (4) 雑食性で植物や他の陸生貝類を捕食するため、土着陸生貝類の生態系攪乱が懸念されている。

10. 防除対策及び参考事項

現在、本種対象の登録薬剤はないので、以下のような対策をとる。

- (1) 発生源となりうる植物残渣の除去を行う。
- (2) アルカリ性の土壌を嫌うので石灰資材等を施用し、酸性土壌の矯正に努める。
- (3) 排水を良くし、土壌を乾燥させる。
- (4) 発生を確認したら、袋等に入れ密閉し処分する。

【参考文献】

- 1) 福田宏・江田伸司 (2014)、「岡山県倉敷市宮前で確認された移入陸産貝類オオクビキレガイ (腹足綱：オカクチキレガイ科) (倉敷市立自然史博物館研究報告 第29号)
- 2) 松隈明彦・武田悟史 (2009)、「外来種オオクビキレガイ (軟体動物門腹足綱) の日本での分布状況と移動方法」(九州大学総合研究博物館研究報告 第7号)



図1 ホウレンソウ (左)、シュンギク (右) の被害



図2 採取したオオクビキレガイ
(スケールは1 cm、
上段は幼貝、下段は成貝)

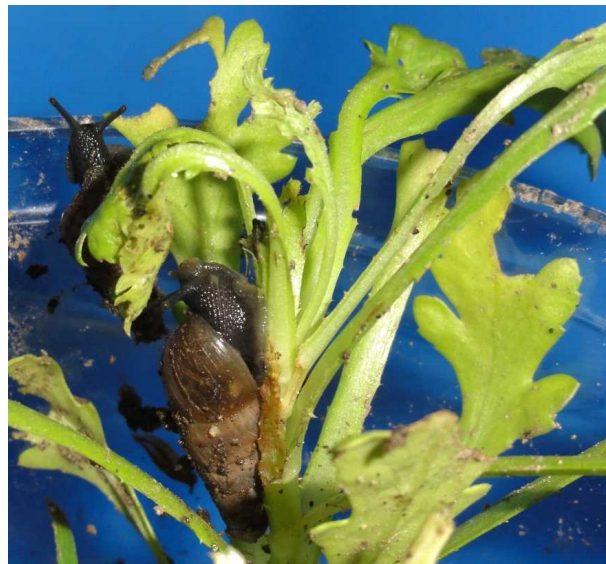


図3 シュンギクに放飼したオオクビキレガイの食害

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239